



発行：さいとう歯科  
〒272-0137  
千葉県市川市福栄3-18-22  
Tel：(047)399-8217  
Fax：(047)399-8217  
HP：http://www.saito-dent.com

## 民族大移動、それは「お盆」

お盆(ぼん)の帰省ラッシュを気にしながら、それでも、ふるさとへと人々が向かうのは何故でしょうか。

お盆は、旧和暦の7月15日を中心に行われる祖先の霊(祖霊)をまつる行事です。新暦では月遅れの8月に行われている処も多いようです。元来、祖霊が初春と初秋に子孫のところを訪れるという信仰と、仏教の「盂蘭盆」(うらぼん)が一緒になって今日のお盆となりました。

「盂蘭盆」はサンスクリット語の「ウランバナ」に、中国で創られた「盂蘭盆経」(うらぼんきょう)が普及し、中元節の旧暦7月15日に先祖供養と施餓鬼(せがき)をする行事として定着したものです。「盂蘭盆経」は、目連(もくれん)尊者が餓鬼道(がきどう)に墜ちた亡母に食べ物を差し出したいとブッダこと釈尊(しゃくそん)に相談すると、「安居(あんご)の最終日に比丘(びく)に食べ物を施せば、その喜びが餓鬼道に伝わり母の口にも入る」と教えられ、母親の供養ができたと言っています。日本では、斉明3年(657)から行われ、聖武天皇の天平5年(733)から、宮中の恒例行事になっています。

さて、全国的にみられる共通したお盆の風習として、幾つかを挙げてみましょう。

**釜蓋朔日**(かまぶたついたち) 地獄の釜の蓋が開き、ご先祖様のお迎えを始める日。

**七夕・棚幡**(たなぼた) 故人をお迎えするために精霊棚(しょうりょうだな)と、棚に安置する幡(ぼん)を供える日。

**迎え火** 13日夕刻に野火を焚き、精霊棚でまつる祖霊・故人にお供え物をします。

**送り火** 16日又は15日に、祖霊を送る野火。京都五山の送り火が有名。川へ送る精霊流し(灯笼流し)も行われます。送る期間は16日から地蔵菩薩の縁日24日まで。

**盆踊り** 16日の晩、すなわち十六夜(いざよい)に地獄での苦を免れた亡者が喜び踊るさまを表現して踊ります。

**初盆**(はつぼん・ういぼん)・**新盆**(しんぼん・にいぼん・あらぼん) 亡くなって49日法要の後に迎える最初のお盆。初盆の家に盆提灯が贈られるなど、特別な行事と意識されます。

**精霊馬**(しょうりょううま) 故人の霊魂が乗るための馬。キュウリは足の速い馬で、あの世から早く戻ってくるように、ナスは歩みの遅い牛で、あの世に帰るのが少しでも遅くなり、供物を乗せて持ち帰ってもらいたいと込められています。

ふるさとでの「やすらぎ」。それは、お盆を訪れた祖霊が子孫に幸を授ける伝承の通りなのかも知れません。

栃木県立なす風土記の丘資料館 館長 篠原祐一

## むし歯はいつの時代から

### むし歯の登場



今月は、夏休み。ちょっと古いですが、「トリビアの泉」ふうの知識は如何でしょうか？

昔の人たちでむし歯が見つかるのは、約一万年前の農耕を始めた頃になります。穀物を栽培し主食として摂取するようになってから。さかのぼること、約七万年前のネアンデルタール人たちは狩猟生活をしており、彼らにはむし歯はありませんでした。

### 農耕とむし歯の関係

全ての植物はスクロース(砂糖のことでですね)を含んでいます。なんだ！やっぱり砂糖か！でも、話はそんなに単純でもなくて・・・

### 昔のむし歯

びっくりしますが、約一万年前のむし歯は、高齢者の病気でした。そして、大人の歯の噛み合わせ面とか子どもの歯にむし歯はありませんでした。歯周病で歯ぐきがやせてくると、歯の根が歯ぐきの上に露出して見えてきます。この歯の根だけにむし歯ができたのです。子どもは歯ぐきがやせている、ということはないですからね。

しかし、その後砂糖が精製されるようになり、あらゆる食品に高濃度の砂糖が含まれることになりました。こうして、子どもたちの歯まであつという間にむし歯が増えていったのです。

### さらに問題が

穀物を栽培するようになって、土壌に変化が起きました。フッ素濃度が減ってきたのです。自然の土壌には、280ppm(百万分のいくつ、を示す単位)のフッ素濃度でしたが、繰り返して穀物を栽培するうち、土のなかのフッ素が少なくなりミネラルバランスが崩れてきていると考えられています。収穫できる穀物のフッ素含有量も減ってきてしまいました。

調べてみると、縄文人より弥生人のほうが虫歯が多いそうです。

さらに、ミイラの歯のフッ素濃度を調べた外国の研究を見ると、歯のフッ素濃度の高いミイラのほうがむし歯が少ないといわれています。

文明の発達とともにむし歯がまん延するようになった、と言えるでしょうね。

文明の発達を、むし歯予防に活かしていきたい、と思います。



参考引用：新潮OH!文庫  
もうむし歯にならない！

花田 信弘著  
株式会社 新潮社